

# さかさまになっていたお札ふだ — 大淀 —

明治のある年のことです。発動機船が漁業にも普及し始めて、大淀港はますます活気に満ちていました。

「きょうも大漁で帰ってくるぞー。」

と言って夜明け前元気な乗りこんでいった漁師たちが、沖に出て漁をしていると、急に風向が変わり雲行きがおかしくなってきました。海はいままで静かだったのに、三角波が立ち始め、荒れ狂い、あっという間に船もろとも漁師たちをのみ込んでしまったのです。

そうして、十数人の犠牲者が出るという、悲しい出来事が起こりました。

人びとは不思議に思いました。台風でもなければ、船の故障でもない。

いったい何が原因でこのような大惨事となったのか、わけがわからなかったのです。

みんなは悲しみにくれました。けれども漁をしなければ食べていけません。





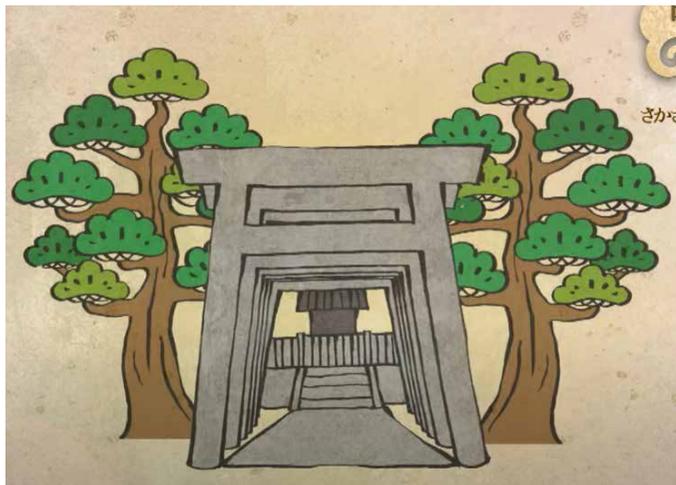
そこで、竜宮の社で海上安全と豊漁の祈願をすることになりました。

漁師達が中心になって、お祈りをしようと、お堂を開けてみると、みんなはびっくり仰天! 何とお札がさかさまになっていたのです。

「遭難したのは、これが原因だったのか!」

みんなは不思議なことがあるものだと思います、一心に神様に祈願したということです。

毎年一月十六日の竜宮祭には、「奉納大海神」と大書きしたのぼりを立て、神前に海の幸を供え、漁師達が集まり豊漁、海上安全を祈っています。



現在の竜宮さん

キーワード：みんな、大淀、竜宮さん、漁業

このお話は、昭和56年に発行された書籍『明和のみんな』（野田那智子さん編著）をもとにし、登場する人物・建物・その他の名称・読み方などは、原文をしようしています。